

第1回庭野平和賞奨励賞



ルキ・フェルナンド氏 (Mr. Ruki Fernando)

肩書き： 人権活動家
国籍： スリランカ
生年月日： 1973年生まれ
宗教/信仰： カトリック

1. 贈呈理由

庭野平和賞奨励賞委員会は、第1回庭野平和賞奨励賞をルキ・フェルナンド氏（スリランカ）に贈呈することを決定しました。

フェルナンド氏は、アジアで最も長い内戦の1つといわれたスリランカ内戦の中、国際青年キリスト教学生運動（IYCS）のアジアコーディネーター、およびカリタス（スリランカ）と協働しているスリランカ・カトリック司祭協議会の社会活動部門である社会経済開発センター（SEDEC）の平和部門コーディネーターなどキリスト教系人道組織で務めた他、フリーランスとして活動してきました。

彼は民族（シンハラ人とタミル人）や宗教（仏教徒とイスラム教徒）の分断と対立がある現場で、人権を奪われ続けてきた民族的少数派のタミル人や国内宗教での少数派であるイスラム教徒の苦しみに寄り添い、声なき声に耳を傾け、人権の擁護と尊重のために活動してきました。同時に、民主主義の醸成を図るネットワーク形成に尽力するほか、戦中と戦後に生じた行方不明者の捜索活動を支援しています。それらの活動と行動はスリランカの民主主義と平和に貢献する人権活動家として高く評価されています。

フェルナンド氏は、民族的には多数派のシンハラ人、宗教的には少数派のカトリック教徒であり、時には敵や裏切り者と見なされても、表面の敵対や偏見ではなく、人々の奥にある良心を見つめ続け、悲苦を自らのものとして寄り添い続けています。正義への信念を胸にスリランカの平和と民主主義の醸成ために行動し続けるフェルナンド氏の活動は、庭野平和賞奨励賞が求める宗教的精神に基づく平和のための実践であると讃え、本賞を贈呈するものです。

*スリランカ内戦（庭野平和財団まとめ）

1983年から2009年にかけてスリランカ政府と同国からの分離独立を求めるタミル人組織「タミル・イーラム解放の虎（LTTE）」の間で展開された内戦。18世紀初頭のイギリス植民地政府の分離統治政策によるタミル人とシンハラ人の分断、およびタミル人の重用（シンハラ人の疎外）が対立の発端にあると言われていた。またその反動として1950年代半ばにはシンハラ政府が国家の言語としてのシンハラ語の公用語化を制定するなどのシンハラ人優遇政策を実施し、さらに両民族の対立が高まった。こうした中、1970年代初頭、タミル人地域の分離独立と自治を要求する武装勢力である「タミルの虎（TNT）」、のちの「タミル・イーラム解放の虎（LTTE）」が発足し、政府との武力闘争に発展した。1990年代には元首相ラジーヴ・ガンディー、大統領のラナシンハ・プレマダーサがLTTEにより暗殺された。度重なる和平交渉や停戦協定を挟みながらも解決には至らず、長きにわたり対立が続けられてきた。内戦は特に北東部居住のタミル人の生活を著しく不安定にし、期間中に約30万人の国内避難民を生み出した。また、シンハラ人とタミル人のいずれともアイデンティティーが異なるイスラム教徒は、内戦中双方から著しく迫害された。さらに、シンハラ人の多くが仏教徒、タミル人の多くがヒンドゥー教徒であることから、この対立は宗教間での偏見や対立も生み出した。2009年にLTTEの最高指導者の殺害による政府軍が勝利し終結。

2. 写真一覧



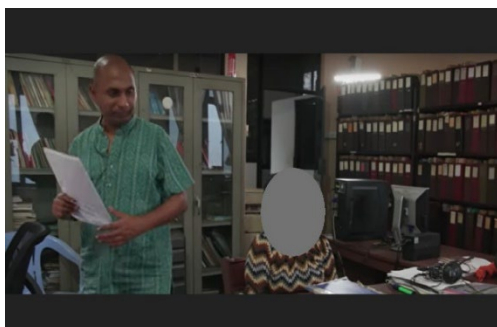
1. マレーシア人活動家迫害への抗議行動にて（マレーシア高等弁務官事務所前）2017



2. 紛争による行方不明者の家族とともに抗議行動（ジャフナ）2018



3. 人権に関する記者会見にて（2022）



4. 行方不明者の家族と（コロombo 2018）



5. ジュネーブ国際開発高等研究にて（マグナカルタに関する英国政府主催イベントにて）2016）



6. キリスト教徒による村落への交流訪問（中部州、ウドゥウェルワラ、スルグネ村にて）2022）（1*）



7. キリスト教徒信への研修（キャンディ 2022）（1*）



8. 前カトリック・マンナール県司教（故人）とカトリック修道女と（マドゥーのカトリック教会にて）2022（1*）

Notice: The photos of the aforementioned numbers 1,2,3, 4 and 5 are prohibited for reproduction.
The copyright of the photos for the aforementioned 6, 7, and 8 are under Lucille Abeykoon.